

令和 7 年第 6 回江府町議会 9 月定例会（第 2 日）

令和 7 年 9 月 1 1 日 午前 1 0 時 開 議

議 事 日 程

日程第 1 町政に対する一般質問

質問者 加 藤 邦 樹

1. 緊急時の町内事業所との連携について

- (1) 6月17日に発生した俣野川発電所の火災について、企業側から説明もなく地元の池ノ内自治会は非常に不安な状況であった。町内には多くの事業所があり、今回のような出来事については隣接している集落への報告、連絡は必要であると思うが、町内事業所と行政間の連携について伺います。

2. 再生エネルギー発電施設の建設計画について

環境を主軸に事業を展開されている江府町内において、大規模な風力発電施設の建設が計画されているが、町内での再生エネルギー発電施設建設の今後の展望について伺います。

1. 貴重な土地を有効活用するべし。町内の優良資産に付加価値を与え更なる魅力化を進め多種多様に活用する為の提言。

- (1) 近年増え続ける耕作放棄地対策と担い手の意欲向上のため公共事業から発生する土砂等を活用し区画面積を拡大させ作業の利便性や安全性の確保と耕作者の所得向上に寄与する事業を計画されてはどうか。
- (2) 二年前の江尾地内における火災被災地の復興状況について伺う。
同地域における復興案を提案する。
 - ① 民間主導型
 - ・ 民間主導であるが復興目的に一定の条件を定めるもの。
 - ② 官民協調型
 - ・ 被災地の寄付行為あるいは無償譲渡を受け又は無償借地し町民のニーズを調査展開するもの。

質問者 川 端 裕

1. 防災対策について

- (1) 火災発生時の初期消火は、重要な行動であるが、町長は、初期消火の重要性をどのように考えているのか伺いたい。
 - ① 老朽化した消火栓は、放水までに手間がかかるで取替を早急に行うべきと思うが取替計画は、どのようにたてられているのか伺いたい。
 - ② 消火栓の取替基準は、どのようになっているのか。また、取替が集落で偏ってはいないか。
 - ③ 消火栓の点検は、どのように行っているのか。

2. 農家の生産向上について

- (1) 政府より生産調整から増産に方向転換になったが、休田など、米作りをするための田にするためには、労力、費用も掛かり、水路も放置されていて、復旧するには多額の費用がかかるが、町独自の助成を考えているか伺いたい。

3. 児童生徒の防犯について

- (1) 今年6月・7月に児童生徒に対するわいせつな行為や盗撮した画像をSNS上のグループで共有していたなどの事件が発覚したが、教育長はどのように認識し対応をとったのか。
- (2) 江府学園では、このようなことが起こらないようにするための具体的な対策をどう講じていくのか。

質問者 芦 立 喜 男

1. 本町の財政状況について

- (1) 令和5年度決算統計の速報値で地方債の町民1人当たりの財政負担は182万8千円。県内で2番目に多い水準であり、これを減少させることは考えているか。
- (2) 3か年平均実質公債費比率は15.3%であるが、直近の令和5年度で16.8%となっている。今後、大型事業分の返済が加わればさらに上昇すると考えられる。18%超えない方策はあるのか。
- (3) ふるさと納税について、町民は、本町は「ふるさと納税が多いから大丈夫」とよく聞きます。しかし、令和4年、5年、6年と伸び率はほぼ止まっています。町長の努力は認めますが、ふるさと納税に対する方向の転換や返礼品の変更等、考えはあるか。

質問者 前 川 文 洋

1. 財政：財政状況と町民生活に直結する行政サービスの維持見通しについて

今年の行財政方針で「財政運営がより一層厳しさを増す」との認識が示された。水道事業では毎年数千万円規模の資本的収支不足が生じていると認識している。また町設光ファイバー網の民間無償譲渡には財政悪化が一因との説明も聞いている。

- (1) この状況で保育園・交流施設という大型建設事業を推進することの適否について所見を問う。
- (2) 今後、上下水道等のインフラ料金値上げなどの住民負担増や、住民サービスの低下の懸念について見解を問う。

2. 建設費：コミュニティパーク事業の規模・事業費の妥当性について

- (1) 当初の保育園建設計画が、コミュニティパークへと発展した理由の説明を求める。
- (2) ①当該施設の事業費総額を示されたい。事業費を利用園児一人当たりに換算した際の、その妥当性について見解を問う。
② 計画されている用途・規模・建物形状が事業費を押し上げる要因になってる場合、規模縮小や計画見直しの検討が必要ではないか。見解を問う。

3. まちづくり：各地区の特徴と、コミュニティパーク及び二地域居住住宅の立地の整合について

鉄道駅を中心とした徒歩・自転車圏である江尾地区と、高速道路インターチェンジを中心とした自動車型の圏域の佐川地区とでは、交通体系と地区の特性が異なると認識している。

町の中長期的将来構想において、地域ごとの役割・機能をどのように調査し定め、次の2事業の立地選定を行ったのかについて、次の説明を求める。

- (1) コミュニティパーク事業（佐川地区）について
 - ① 保育・交流施設としての適地性の根拠を提示されたい。
 - ② 児童送迎など施設利用者の安全性の観点から、交通量及び大型車比率等の状況並びに見解を示されたい。
- (2) 二地域居住促進住宅整備（江尾地区）について
旧役場跡地というアクセスが良好な一団の土地に、利用者の限定的な住宅を建設するのは妥当か。
町有遊休地や空き家活用の方が有効ではないか。
- (3) 住民サービスの集中した江尾地区と商業サービスに適した佐川国道沿いとをゾーニングにし、安全で効率的な町の空間構成を主導すべきではないか。上記2事業の立地の再検討を求める。